

# 4 調査ぶりの悪化となった消費者心理

— 2人に1人が景況悪化を見通し、雇用・収入も後退を示す —

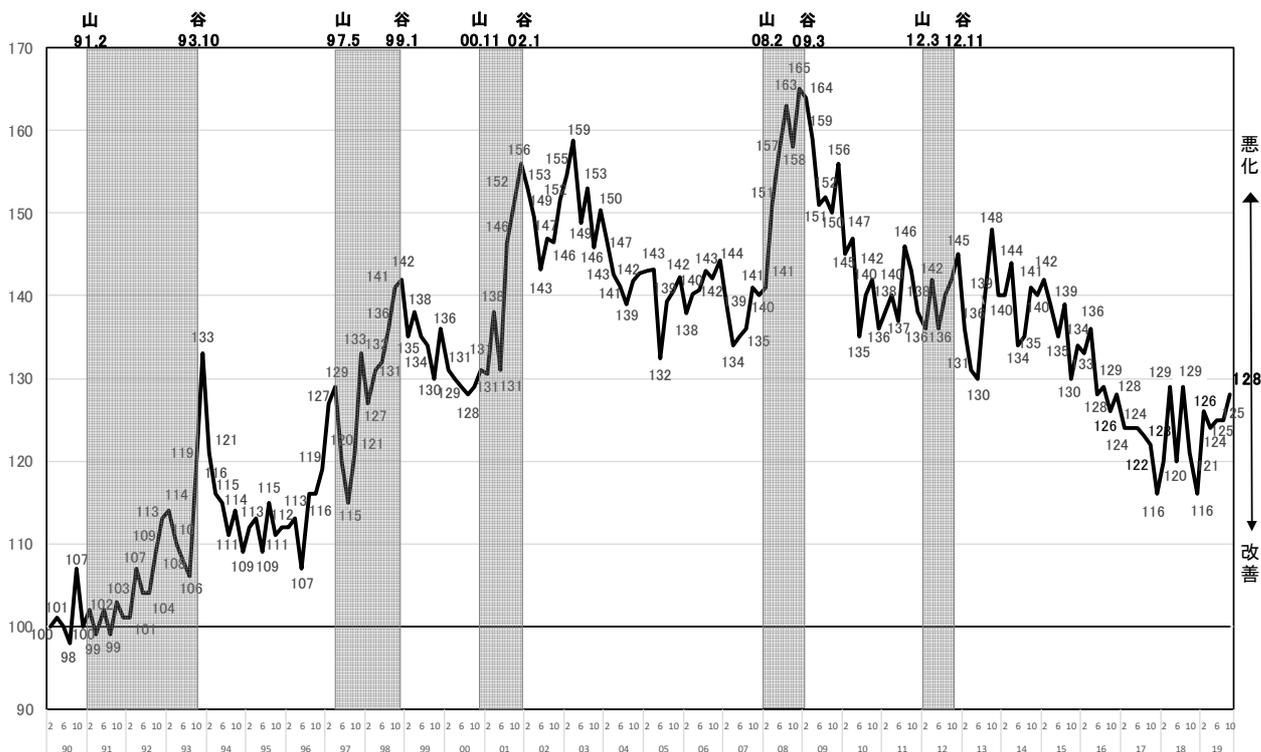
消費者による今後1年間の見通し判断を調査したCSI(10月調査)によれば、

前回8月は小幅な持ち直しとなった景況感が後退し、景気見通し指数も大きく低下、13年以降で最も低い水準まで悪化している。また、物価[上昇]見通しは2調査連続の減少、高まりつつあった上昇圧力は一服となった。他方で、失業[不安]見通しは2調査連続のプラス、[不安なし]側もマイナスと両側で弱い動きとなり、収入の先行きは[増加][減少]両側で悪化、小幅な後退を示す。10月の消費者心理はやや悪化が示されており、8月までの膠着した状況から後退が認められる。

## 《概況》

消費者の景気、雇用、収入、物価等に対する見通しの変化を反映した消費者心理の指標である生活不安度指数は、10月は128で、前回8月(125)から上昇、僅かに悪化となった。同指数は18年12月(116)にかけて持ち直しがみられたものの、翌2月(126)にかなり上昇、後退に転じ、以降8月まではほぼ横ばいを保ったが、再び上昇、悪化を示している。

図表 生活不安度指数の推移



- **生活不安度指数**のもととなる**今後1年間の暮らし向きの見通し**は、**[良くなる]8.1%、[変わらない]54.8%、[悪くなる]27.3%**であった。前回8月調査と比べると、**[良くなる]**は僅かに減少し、この1年では最低となった。他方、**[悪くなる]**は2月から緩やかなプラスが続き、16年12月以来の水準まで増加している。また、**[変わらない]**はほぼ横ばいである。
- **先行きの景況感**は、**[良くなる]7.2%、[変わらない]30.1%、[悪くなる]50.6%**となった。8月と比べて、**[良くなる]**はやや減少、2調査ぶりのマイナスで1割を割り込み、12年12月以来の低水準である。他方、**[悪くなる]**は増加、6月以来で5割を上回った。また**[変わらない]**はほぼ横ばいで、2調査連続で3割を上回っている。この回答割合を指数化した**景気見通し指数は32**となり、前回8月の44から大きく低下、6月以来2調査ぶりのマイナスとなり、後退している。また、13年以降では最も低い水準であり、前年同月比でみると8調査連続でマイナス状態にある。

**雇用(失業不安)の先行き見通し**では、**[不安]と答えた人は59.6%、[不安なし]と答えた人は37.8%**であった。8月調査と比べると、**[不安]**はやや増加、2調査連続のプラスで、この3年で最も高い。他方で、反対側の**[不安なし]**はやや減少し、2月以来で4割を下回るとともに、18年4月に次ぐ水準まで減少している。

**収入の先行き見通し**をみると、**[増える]人は13.3%、[変わらない]人は48.4%、[減る]人は29.1%**であった。8月と比べると、**[増える]**は僅かにマイナス、4月以来3調査ぶりの縮小となった。これに対して、反対の**[減る]**は僅かにプラスで、前々回6月と同水準まで拡大している。また、**[変わらない]**はほぼ横ばいで、3調査連続で5割を下回った。

**物価の先行き見通し**では、**[上昇]は68.1%、[変わらない]は18.5%、[下落]は2.7%**であった。8月と比べて、**[上昇]**は減少、2調査連続のマイナスで、19年2月以来4調査ぶりの6割台となった。一方、**[下落]**は微増、2調査連続で2%を上回った。また、**[変わらない]**は2調査連続のプラスで、18年12月とほぼ同水準である。
- **今後1年間が商品等を購入するのに『良い時』か『悪い時』か**について尋ねた**10月の購買態度指数**は、8月と比べて、「**不動産**」(79→78)、「**自動車**」(80→79)はほぼ横ばいも弱含み。「**耐久財**」(91→86)は2調査連続の後退、直近で最も高い前年同月から30ポイント余り低下。

## 【有効回収数等】

	有効回収票	調査期間
2019年10月調査 (18歳～79歳)	1,158	10月3日～10月15日